

練馬区教育委員会教育長賞

『納税者からの贈り物』

練馬区立練馬中学校 二学年 浦邊 香都

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

私たちが使う教科書の裏表紙には必ずこの二文が印字されている。ここには国から私たちへ対する強い思いが秘められているように感じた。

ところで、昨年私は学校でSDGsと呼ばれるよりよい世界に変えていくための十七の目標について学習した。そのなかには、「質の高い教育をみんなに」という目標が掲げられている。この目標について興味深く、調べてみたことがある。具体的には、二〇三〇年までにすべての子どもが、公平で質の高い教育を無料で受け小学校と中学校を卒業することや老若男女問わず、すべての人が読み書き計算をできるようにするということが書かれていた。私はこの情報を知り、日本であたりまえと考えられていたことがあたりまえでなかったことにとても驚いた。しかし、

更に私が驚いたこと。それは世界のある地域

では、小学校に五人に一人が通えていないということだ。そこには幾つかの要因がある。例えば、学校が近くにないこと、先生がいないこと、病気を患ってしまったことがある。そのなかでも、一番多かった要因はお金がないということだ。それはつまり、国が学校を建てる予算がないということ。また、通う生徒の家計が苦しいということだ。校舎を建てられたとしても、不衛生な環境のなか、学習することになる。私が見たとある地域の学校生活をうつした動画は凄惨な光景だった。教室には意欲あふれる子どもたちが、イスも机も足りない状況で授業を受け、つぎはぎだらけの教科書を数人で一冊もち、扇風機やエアコンはもちろんなく、生徒たちの汗のような汗は教室の床に大きな水たまりをつくっていた。

では、何故日本では不自由なく学校教育が受けられるのか。それは税金が大きく関わってきている。私は増税されて、今までより一層税金に対する考え方がマイナスイメージな方へと

変わってしまった。しかし、一見嫌になっってしまう税金は私たちの生活を豊かにしてくれていた。例えば、私たち中学生の一日と税金の関わりを考えると、起床して、洗面や調理に使う水の一部は税金によって整備されている。次に登校時を考えると、安全に歩くための信号や道路、ガードレールも税金が使われている。更に、授業を受ける際、施設や教材も税金でまかなわれている。部活動で使う施設も一部税金が使われていることがある。

私たちが数年後、将来を担っていく者として、納税をする。この税金はまるで地球を循環していく水のように、間接的ではあるものの、誰かの生活を間違いなく豊かに、そして幸せにしている。私たちが学生生活を送れることは、納税者からの素敵な贈り物だ。きちんと感謝していくべきだと私は思う。